

排泄行動の自立について

児童家庭福祉研究部	望 月 武 子
総合母子保健センター保健指導部	河 西 恵 子
"	小 田 智 子
"	石 井 克 枝

1982年の調査で、排泄行動の自立やしつけに対する態度が、従来の調査結果と比べかなり変化してきている実態を明らかにした。その後10年を経過したので、再び、排泄行動の自立状況及びその背景について調べ、最近の実態を把握した。対象は保健指導部へ2歳6か月時の健診に来部した177名である。

排泄の自立状況は、事前に尿意を予告できほとんど失敗がない状態に達しているもの、失敗はあるが事前に予告することも可能になっているもの、尿意を予告できないものに、ほぼ3分されていた。

排泄のしつけ開始は、24か月を目安に考えているものが多く、24か月から29か月のしつけ開始が過半数を占めていた。1982年の調査と比較して、しつけ開始時期が遅れており、これに伴い2歳6か月時点で排泄の予告が可能になった割合はやや減少していた。

しつけ開始が早いほど予告が可能になる月齢は早くなっているが、反面、しつけに要した期間は長くなっている。また、予告不能の中に安定した母子関係を成立しにくい要因の存在がうかがわれた。

紙おむつを常時使用したものが75%と大幅に増加しており、このことは排泄のしつけに対する意識やしつけ行動へ何らかの影響を及ぼしていると考えられる。

見出し語：排泄の自立、しつけ開始時期、予告可能になる条件、

Study on Establishment of the Infantaile Elimination Habit

Takeko MOCHIZUKI.
Keiko KAWANISHI.
Tomoko ODA.
Katsue ISHII.

In this study 177 infants, aged two and a half years, were objects for the research of establishment of the elimination habit. Compared with the former research in 1982, the age of initiating elimination training by their mothers changed later during the past 10 years. In accordance with this tendency, the percentage of the infants who could make known their need to elimination became a little down. The earlier the age of initiating, the earlier the age of making known, but the duration of elimination training by their mothers became necessarily longer.

Key Words: Establishment of the infantaile Elimination Habit, The Age of Initiating Elimination training, Condition of the Ability of Making Known Infantile Need to Elimination

I 目的

前回、1982年に、2歳6か月時点の排泄行動の自立について、その実態を調べた。排泄の予告が可能になった割合は60.0%で、1972年の90.1%に比べ、かなり大幅の遅れがみられた。また、排便についてのトラブル（便所での排便を嫌がり抵抗する、物陰にかくれて排便するなど）の増加が目立っていた。

今回は、その調査から10年を経過したので、再び排泄行動の自立状況やしつけのあり方などを調べ、最近の傾向を明らかにしようとした。

II 対象及び方法

1991年10月から1992年3月までに、保健指導部へ2歳6か月時の健診に来部し、心理相談をうけた177名（男児90名、女児87名）を対象にした。

排尿、排便の自立状況、しつけ開始時期しつけ開始の契機とその方法、排泄のしつけに関して心配し困っていること、などについてアンケートにより母親から回答を得た。そして、これらを心理相談所見、性別出生順位、弟妹の有無、母親の育児経験、母親の職業の有無、祖母同居の有無などの生活背景と関連づけて分析した。

III 結果及び考察

1 排泄行動の自立状況

排尿、排便の自立状況について、子どもの行動を6段階にわけてとらえた。

(1) 排尿の自立について

排尿の自立状況を表1に示した。尿意を予告できてほとんど失敗がない状態に達しているものが34.4%であり、失敗はあるが予告が可能になっているもの30.0%、尿意を予告できないもの35.5%で、ほぼ3分されていた。性別による比較では、女児の方がやや自立が早い傾向がうかがえるが、有意差はなかった。

(2) 排便の自立について

排便の自立状況を表2に示した。便意

を予告してほとんど失敗がない状態に達しているもの37.5%、失敗はあるが予告が可能になっているもの25.6%、便意を予告できないもの36.9%であった。排便の自立は女児の方が早く、有意差が認められた。

(3) 1982年調査との比較

排尿、排便ともに、ときどき教える以上の段階に達しているものを予告可能として、性別、及び1982年の調査結果と比較したものが表3である。排尿排便とも予告可能の割合は、男児の44.4%に対し女児は65.5%と高く、有意差がみられた。また、年次による比較では、1982年の予告可能60.0%に対し今回は54.8%になり、排泄の自立はさらに遅くなる傾向がみられたが、

表1 排尿の自立状態

	全体 N=177	男児 N=90	女児 N=87
自分でトイレへ行っている	19 10.7%	8 8.9%	11 12.6%
事前に教え殆ど失敗はない	42 23.7	20 22.2	22 25.3
失敗はあるが事前に教える	26 14.7	9 10.0	17 19.5
ときどき事前に教える	27 15.3	15 16.7	12 13.8
でてしまってから言う	44 24.8	25 27.8	19 21.8
出ても平気、無関心	19 10.7	13 14.4	6 6.9

表2 排便の自立状態

x² 検定: * p<0.05

	全体	男児	女児 *
自分でトイレへ行っている	20 11.4%	5 5.6%	15 17.2%
事前に教え殆ど失敗はない	46 26.1	23 25.8	23 26.4
失敗はあるが事前に教える	17 9.7	5 5.6	12 13.8
ときどき教える	28 15.9	16 18.0	12 13.8
でてしまってから言う	56 31.8	33 37.1	23 26.4
出ても平気、無関心	9 5.1	7 7.9	2 2.3

表3 排泄の予告

X²検定: * p<0.05 *** p<0.001

	男児	女児***	1992年・計	1982年
予告可能	40 44.4%	57 65.5%	97 54.8%	72 60.0%
不 能	50 55.6	30 34.5	80 45.2	48 40.0
内 両便	29 32.2	20 23.0	49 27.7*	19 15.8
便	12 13.3	5 5.7	17 9.6	20 16.7
誤 尿	9 10.0	5 5.7	14 7.9	9 7.5

表4 排尿のしつけ開始の時期

	男児	女児 *	1992年 ***	1982年
～11か月	0	0	0	7 5.8%
12～17か月	1 1.2%	3 3.7%	4 2.4%	22 18.3
18～23か月	25 30.1	38 46.3	63 38.2	40 33.3
24～29か月	49 59.0	39 47.6	88 53.3	51 42.5
30～未開始含	8 9.6	2 2.4	10 6.1	0
平均月齢(SD)	24.0 (3.2)	22.4 (3.2)	23.2 (3.3)	20.2 (5.5)

表6 どのような誘いかけ

生活リズムの中で	95 53.7%
時間をみて	63 35.6
子どもの様子で	55 31.1
とくに誘わない	22 12.7
その他	2 1.1
無記入	10 5.5

表5 しつけ開始の契機 M.A.

	1992年	1982年
暖かくなったから	64 36.2%	42 35.0%
年 令	48 27.1	31 25.8
理解力が発達した	44 24.9	3 2.5
事後教えるようになった	30 16.9	4 3.3
タイミングがつかめた	22 12.4	7 5.8
他の人がしつけを始めた	13 7.3	… …
他児が予告するのをみて	12 6.8	7 5.8
回りの人に言われて	11 6.2	12 10.0
兄弟の経験から	9 5.1	5 4.2
次の子が生れるから	8 4.5	2 1.7
本人がおむつを嫌がった	6 3.4	2 1.7
その他	18 10.2	10 8.3
不明	19 10.7	10 8.3

表7 排泄のしつけで困っていること

困っていることはない	78 45.1%
物陰でパンツやおむつにする	27 15.6
誘うと嫌がって抵抗する	26 15.0
トイレで排泄できない	20 11.5
全く教えない	19 11.0
汚れても取り替えるを嫌がる	11 6.4
トイレを嫌う	7 4.0
その他	23 13.3

性別でみると、男児に比べ女児の方がしつけ開始が早く、平均月齢で約2か月の差がみられた。

また、1982年との比較では、しつけ開始が明らかに遅れてきており18か月以前の開始は極めて少数であった。平均月齢では3か月遅く、標準偏差は3.3と小さくなりしつけ開始は24か月前後に集約されてきている。一方、2歳6か月時点でしつけを開始していないもの、開始時期無記入の中にしつけを開始していないと推測できるものが合わせて約8%あり、しつけへの意識の変化をみることができる。

(2) しつけ開始の契機

しつけを始めようと考えたのはどんなことが契機であったかを尋ねた結果が表5である。季節、年齢を契機にしている割合が多いが、前回の調査と比べて子どもの理解力が発達した、事後教えるようになった、タイミングがつかめたなど、子どもの発達や行動に合わせたしつけ開始がやや増加していた。

(3) しつけの方法

どのような誘いかけで子どもを導いているかを表6に示した。朝、目覚めた時、外遊びや就寝の前などに「日々の生活リズムの中で」が多く、次いで「時間をみて誘う」であった。時間で誘う場合、20分から3～4時間と誘いかけの間隔の幅はかなり大きかった。

有意差はなかった。

表の下段に示したものが予告不能の内容であるが、今回の調査では両便ともに予告できないものの割合が高くなり、前回と比べその内容は違いがみられた。

2 排泄のしつけについて

(1) しつけの開始時期

表4は、排尿についてトレーニングを開始した時期をまとめ、有意差がみられた性別、年次別の比較を示したものである。しつけ開始は24か月から29か月が最も多く半数余りがこの時期に始めていた。月齢別にみると24か月で開始したものが最も多く58名、32.8%に及び、次いで18か月の18名、10.2%が目立っていて、24か月、18か月を排尿のしつけ開始の目安と考えている母親が多いことが分かる。

なお、日中おむつをはずしているもの63%、常時おむつを使用中のもの22%であり、おむつをはずした理由はトレーニングを始めたからが38%であった。

(4) しつけに関しての心配や困っていること

表7は、現在しつけに関して困っていることである。物陰で排便する、誘うと嫌がって抵抗する、トイレで排便できず排泄を止めてしまうなどがあるが、現状では仕方がないと受け止めており、深刻な心配は少なかった。しつけを成功に導くために配慮したことでは、叱らない、褒める、無理強いしない、トイレを親しみやすい雰囲気にするなどが大勢を占めていた。

3 排泄の予告

(1) しつけ開始の時期との関連

排尿について、しつけ開始時期と予告が可能になった月齢との関連をみたものが表8である。

17か月以前の開始を除くと、しつけ開始が早い方が予告可能になる月齢が早くなっている。しかし、しつけ開始から予告可能になるまで、すなわち、しつけに要した期間はしつけ開始が遅いものほど短くなっていた。一方、予告できない割合は24か月以後のしつけ開始のものに高くなっていた。排便についても同様の傾向が見られた。

以上のことから、しつけ開始が遅い方が成熟要因によりしつけ期間は短縮されるが、自我の発達との関連でしつけへの拒否反応が出やすく、成功へ導きにくい条件もあることを考慮する必要があるといえる。

(2) 心理相談の判定との関連

2歳6か月時点で行った心理相談の判定と排泄の予告の可否との関連をみたものが表9である。問題なしとされた場合に比べ、何らかの問題を疑われた場合は、予告できない割合が高くなっていた。

発達上の問題では全体発達やことばの遅れがあり、行動上の問題では相互関係の育ちが未熟で、人の働きかけに注目しにくい、多動、マイペース傾向があるなど、母子関係の問題では子どもの視点に立てず、子どもの行動への理解、配慮が足りない、関係が一方的で子どもの気持ちに添いきれないなどがあって、排泄のしつけを成功に導きにくい条件として子ども側あるいは母親

側に安定した関係を育てにくい要因の存在をうかがうことができる。この他、生活の背景との関連で予告の可否の状況をみたが、母親の職業あり（子どもは保育園に在園が多い）が職業なしに比べ、予告可能の割合が高く、一般家庭の母親と保育所職員のしつけに対する意識や態度の差が表われたものと推測される。

表10に紙おむつなど排泄行動と関連のある育児用品の使用状況を示した。常時紙おむつを使用した割合は1982年の16%に比べ75%となり大幅の普及をみせていた。この事実も母親の排泄のしつけに対する意識やしつけ行動へ影響を及ぼしているものと考えられる。

表8のしつけ開始時期と予告可能月齢の関係

予告月齢	21 ~23	24 ~26	27 ~29	30~	予告平 均月齢	時々 教える	予告 不能
~17か月	1	0	1	0	25.0	人	2
18~20か月	7	10	2	0	23.8	3	5
21~23か月	3	14	11	0	25.8	2	6
24~26か月		10	20	0	26.9	15	27
27~29か月			4	1	29.0	5	6
30か月~				2	30.0	1	2
不明未開始			1		...	1	15

表9心理相談の判定と排泄の予告

	排尿の予告		排便の予告	
	予告可能	不能	予告可能	不能
	%	%	%	%
問題なし	88 67.7	42 32.3	87 66.9	43 33.1
発達上の問題	7 50.0	7 50.0	6 42.9	8 57.1
行動上の問題	8 44.4	10 55.6	8 44.4	10 55.6
母子関係	13 52.0	12 48.0	11 44.0	14 56.0
その他	5 71.4	2 28.6	6 85.7	1 14.3

表10 紙おむつ、おまる、こども用便座使用状況

	紙おむつ		布おむつ		おまる		子ども便座	
常時使用	133	75.1%	22	12.4%	23	13.0%	72	40.7%
時々使用	23	13.0	28	15.8	55	31.1	47	26.6
使用せず	7	4.0	110	62.1	71	40.1	38	21.5
無記入	14	7.9	17	9.6	28	15.8	20	11.3